

境小全員で創り上げる大相撲さながらの相撲大会

「大相撲押立場所」

6月17日(水)本校伝統の「大相撲押立場所」を開催しました。場所は学校近くにある押立山。押立山は国見山とも呼ばれ、江戸時代にこの地を訪れた藩主をもてなすために奉納相撲が行われていた歴史があります。24年前、当時の6年生が土俵跡を発見したことをきっかけにこの相撲大会が始まり、今では境小の伝統となっています。

土俵では、1年生から5年生の代表者と6年生全員が力士として東西に分かれて白熱した取組を繰り広げました。この相撲大会の特徴は、しこ名の入った手作りの化粧まわしに始まり、星取表、会場作り、行司、呼び出し、取組の合間の懸賞幕に至るまで、学年の分担があり、全校児童で創り上げることです。300年前の歴史に思いを寄せ、先輩達の熱い思いを受け継いだ子どもたちによって、大相撲さながらの素晴らしい押立場所となりました。

開催にあたり、土俵や周辺的环境整備に力を貸していただいた同窓会の皆様、当日、温かい声援で会場を大いに盛り上げてくださった保護者や地域の皆様に、心から感謝申し上げます。

